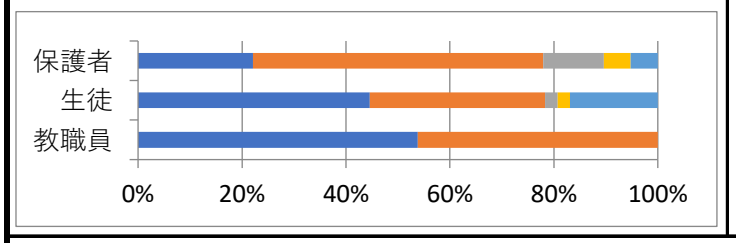
令和5年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

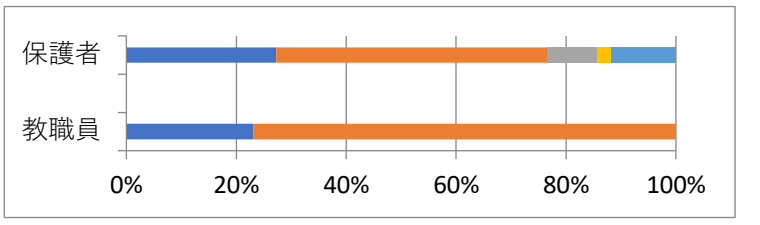
1　一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていると思いますか。



2　道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

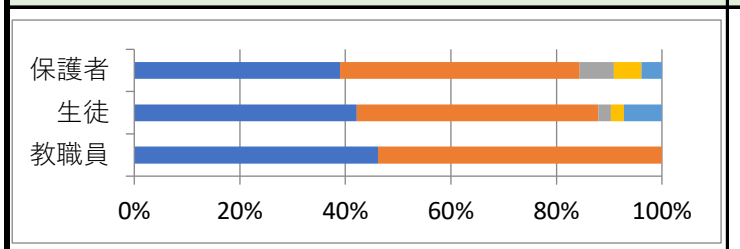


考察：一人ひとりの子どもを大切にした指導や対応については、すべての教職員が「出来ている」と評価している。昨年度と比較すると、「そう思う」と評価した教職員の割合が伸びている一方で、児童の割合は減少していた。道徳・心の教育の充実についても、すべての教職員が「努めている」と評価している。特に「そう思う」と評価している保護者の割合が教職員の割合よりも高い。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

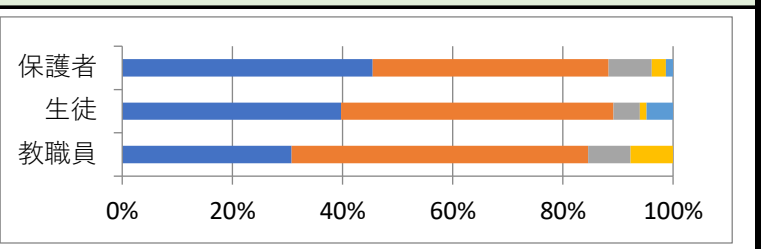
3　授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4　タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

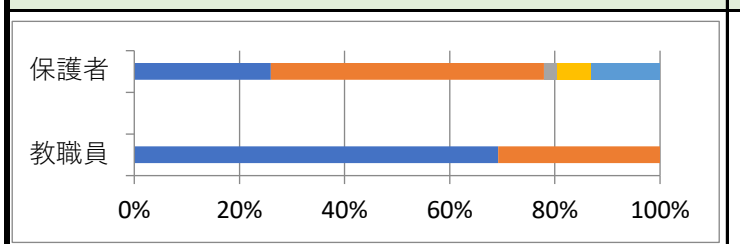


考察：わかる授業・楽しい授業づくりについては、すべての教職員、児童の88%が「努めている」と評価している。特に保護者の割合が昨年度の71%から85%と評価が上がっており、教職員の努力が保護者に理解されてきている様子が伺える。学習に対するタブレット活用については、昨年度に比べ教職員・保護者とも評価されてきたが、「どちらかと言えばそう思う」の割合が多い。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

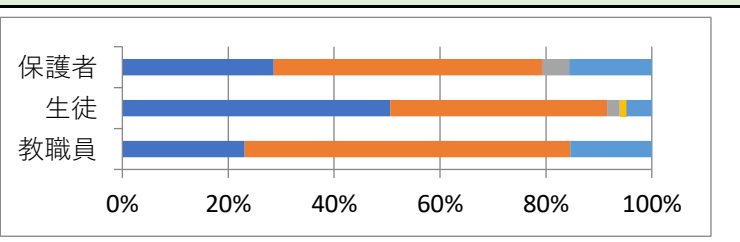
5　学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

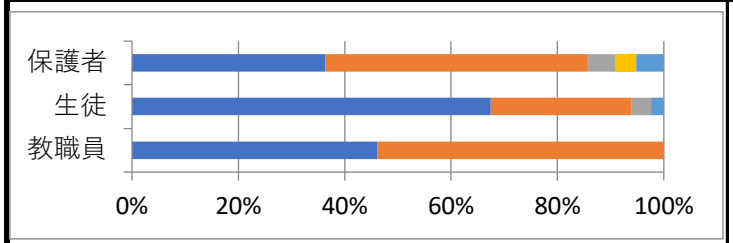
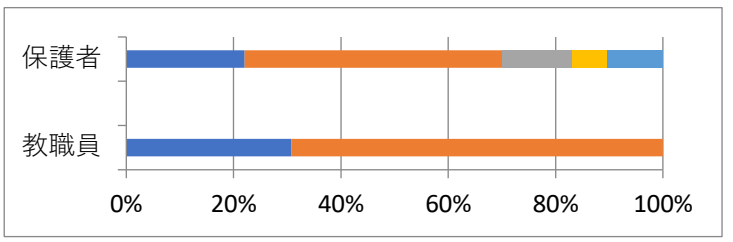


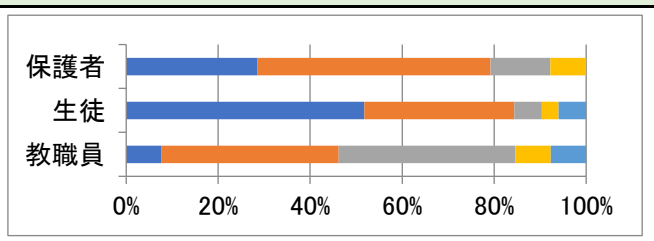
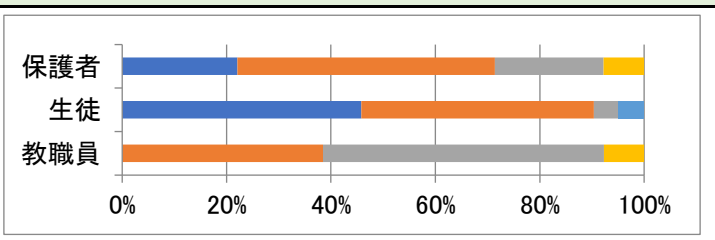
6　共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察：支援を要する児童の教育に対し共通理解を図りながら取り組んでいることについては、昨年度と比べ評価が向上している。中でも保護者の割合は65%から78%へと評価が高くなっている。「交流および共同学習」については、相互理解につながっているかということについては15%の教職員が「わからない」と回答するとともに、「そう思う」と回答している教職員も23%にとどまっている。

④　学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7　安全と事故防止	8　家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
	
考察：安全と事故防止については、94％の児童が安全に気を付けて過ごしていると回答している。一方、安全教育に対する取り組みは、「そう思う」と評価した教職員は46％にとどまっている。今年度は学習発表会や運動会、授業参観等の行事をとおし、家庭や地域との連携協力が進めやすい状況が整ってきた。引き続き保護者に情報を発信し、連携協力しながら教育活動を進めていく必要がある。	

⑤　本校の教育	
9　進んで行う挨拶の励行	10　話を聞く態度
子どもは、学校や地域で自ら進んであいさつをしていると思いますか。	子どもは、学習や生活の中で先生や友達の話を、相手を見て最後まで聞いていると思いますか。
	
考察：進んで挨拶ができているかについては、保護者や児童は80％以上ができていると回答していることに対し、教職員の46％はできていないと回答している。相手の話を最後まで聞いているかということに関しては、児童や保護者はできていると評価しているが、教職員は62％ができていないと評価している。挨拶と聞く態度については認識の違いが大きく表れている。	

来年度の具体的な取組について

・本校はほとんどの学年が単学級で、職員一人ひとりの校務分掌が非常に多い。そのような中、教職員は、一人ひとりの子どもを大切にした指導に日々努めている。児童や保護者からの評価は比較的高いものの、十分伝わっていない部分も見受けられる。今後は、更なる日課の工夫や行事の精選等、教職員一人ひとりの負担感を減らすとともに、児童にとって「勉強が分かる。」「先生たちは自分のことを理解してくれている。」と実感できる取り組み（授業力の向上及び児童理解）をさらに進めていくことが必要だと思われる。児童の自己肯定感を高めることで、保護者の学校理解へとつなげていきたい。

・一人1台のタブレットが導入されたが、効果的な活用については課題が見られる。教職員が日常の授業に対して、教師主導ではなく児童主体の「学び取る」授業づくりへ意識改革を進めていくとともに、その手段としてタブレット活用の良さを実感できる授業を展開していくことが大切である。児童の実態に応じた研究テーマを設定し、教職員が一丸となって授業改善を意識して取り組むことができるような校内研修を進めていくことで、児童の学力向上へとつなげていきたい。

・本校の児童や保護者は、児童が進んで挨拶をしたり話を最後まで聞いたりすることはできていると考えている。しかし、教職員から見ると、校区中学校との共通実践項目であるにもかかわらずその評価は低い。まずは、教職員が児童のモデルとして望ましい挨拶や話の聞き方を示しながら、子どもたちの伸びを見逃さず、認めほめることで、子どもたち自身の意欲の高まりを今後も促していきたい。

学校関係者評価

・学校評議員の方々からは、多くの項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と高い評価を得ることができた。今年度は年度途中より授業や行事の様子を参観していただくことができたことで、学校教育に対する理解が一層深まってきた。

・「タブレットの活用」については、授業以外での積極的な活用について意見をいただいた。GIGAスクール構想により１人１台整備されているタブレットを、「主体的に学ぶ」ためのツールとして活用していく取り組みを進めていく必要がある。情報機器の有効な活用については、学校はもちろん家庭の理解と協力が不可欠である。今年度、保護者対象に行った情報機器との関わり方についての講演会のように、学校から家庭への啓発活動を引き続き行っていきたい。

・熊本地震や新型コロナウイルスを経験する中で、学校と家庭、そして地域の繋がりが減少してきており、地区内でも同じ傾向である。そのような中、総合的な学習の時間を中心に地域の人材をゲストティーチャーとして招き教育活動を進めてきた。学校の様子を学校便りや学校ホームページで情報発信してきたことで、教職員の努力や学校としての取り組み、児童の頑張りを評価していただくことができた。引き続き広く情報収集に努め発信していくことが大切である。

・学校と家庭、そして地域が一緒になって、児童が自己有用感を高められる取り組みを継続していくことが必要である。今後も、学校行事や日課の見直しを進めながら、【友達と共に（と）、よく考えよく笑い（よ）、大事に思い合う（だ）豊田小学校】として、家庭や地域から信頼される学校づくりを進めていくことが望まれる。